

# 安全データシート

発行日：2012.12.07  
改訂日：2020.01.21

SDS番号：JIn-132J  
版番号：03

## 1. 化学品及び会社情報

製品名 インクタンク B J I - P 5 2 1 B k  
スターターインクタンク B k

製品コード 7636B

会社名 キヤノンファインテックニスカ株式会社  
住所 〒341-8527 埼玉県三郷市中央1丁目14番地1  
電話番号 048-949-2111

問い合わせ先 キヤノンマーケティングジャパン株式会社 製品安全推進担当  
住所 〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6  
電話番号 03-6719-9729

推奨用途及び使用上の制限 インクジェットプリンタ用インク

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類 生殖毒性：区分1B

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル 

注意喚起語 危険

危険有害性情報 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

注意書き なし

他の危険有害性 なし

## 3. 組成及び成分情報

単一製品又は混合物の区分 混合物

### 成分

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲 (重量%)	化学特性 (化学式等)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS番号
グリセリン	5-10	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> O <sub>3</sub>	2-242	56-81-5
尿素化合物	5-10	営業機密	営業機密	営業機密
2-ピロリドン	1-5	C <sub>4</sub> H <sub>7</sub> NO	5-112	616-45-5
カーボンブラック	1-5	C	対象外	1333-86-4
ジオール	1-5	営業機密	営業機密	営業機密
水	70-90	H <sub>2</sub> O	対象外	7732-18-5

## 4. 応急措置

吸入した場合	症状があれば、新鮮な空気のある場所へ移動させ、医師の助言を得ること。
皮膚に付着した場合	石鹸を使い、水でよく洗浄すること。刺激が残る場合は、医師の診察を受けること。
眼に入った場合	ほどよく温かい穏やかな流水で5分間洗浄すること。 刺激が残る場合は、医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合	水で口の中をうがいし、直ちに医師の診察を受けること。
最も重要な徴候症状	
吸入	通常の使用条件下での悪影響は予想されない。 ミストや蒸気に過度に暴露すると、頭痛や吐き気、めまい、嘔吐、眠気、 咳を起こす可能性がある。
皮膚	中程度の刺激性があるかもしれないが、感作性は予想されない。(セクション11参照)
眼	ごく僅かな刺激性があるかもしれない。(セクション11参照)
経口	吐き気や眠気、めまい、嘔吐、腹痛、頭痛、倦怠感、下痢を起こす可能性がある。
慢性影響	情報なし
応急措置をする者の保護	特になし

## 5. 火災時の措置

消火剤	二酸化炭素、水、泡消火剤、粉末消火剤
使ってはならない消火剤	なし
特有の危険有害性	なし
特有の消火方法	なし
消火を行う者の保護	消火作業の際には必要に応じ保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	眼や皮膚、衣服に付かないようにする。 取り扱い後は完全に洗浄する。
環境に対する注意事項	下水や地表水、地下水へ流出させない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	濡れた布や紙で拭き取る。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	換気のよいところで取り扱うことが望ましい。
安全取扱注意事項	眼や皮膚、衣服に付かないようにする。もし付いた場合は、速やかに洗浄すること。
保管	
安全な保管条件	直射日光を避け、涼しいところに保管。子供の手の届かないところに置くこと。
安全な容器包装材料	適用外(本製品は他の容器、包装へ移し替えて保管することは意図されていない)

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度/許容濃度

#### 製品

製品名	労働安全衛生法 管理濃度	日本産業衛生学会 許容濃度 (2019年版)	ACGIH TLV (2019年版)
インクジェットプリンタ用インク	設定なし	設定なし	設定なし

#### 成分

化学名	労働安全衛生法 管理濃度	日本産業衛生学会 許容濃度 (2019年版)	ACGIH TLV (2019年版)
カーボンブラック	3.0 mg/m <sup>3</sup>	第2種粉塵： 1 mg/m <sup>3</sup> (吸入性粉塵) 4 mg/m <sup>3</sup> (総粉塵)	TWA: 3 mg/m <sup>3</sup> (Inhalable fraction)

### 設備対策

適切な換気を行うこと。

### 保護具

呼吸用保護具	不要
手の保護具	不要
眼の保護具	不要
皮膚及び身体の保護具	不要

## 9. 物理的及び化学的性質

外観 (物理的状態、形状、色)	黒色液体
臭い	微臭
臭いのしきい (閾) 値	なし
pH	8-9
融点・凝固点 (°C)	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲 (°C)	データなし
引火点 (°C)	引火点なし (推定)
蒸発速度	データなし
燃焼性 (固体、気体)	適用外
爆発範囲	なし (推定)
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重 (密度)	1.0-1.1
溶解度	
水溶性	可溶
脂溶性	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度 (°C)	データなし
分解温度 (°C)	データなし
粘度 (粘性率) (mPa s)	1-5
その他のデータ	なし

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

通常の取り扱い条件においては危険な反応は起こらない。

### 化学的安定性

通常の取り扱い条件においては安定。

危険有害反応可能性	なし
避けるべき条件	なし
混触危険物質	酸、塩基、酸化剤、還元剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物

## 1 1. 有害性情報

急性毒性	
経口	データなし
経皮	データなし
吸入	データなし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	Moderate irritant (rabbit) (類似組成のインクにて実施) OECD Guidelines No. 404 (1992), 92/69/EEC Method B4
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	Minimal irritant (rabbit) (類似組成のインクにて実施) OECD Guidelines No. 405 (1987), 92/69/EEC Method B5
呼吸器感作性又は皮膚感作性	Not sensitizing, (guinea pig) (類似組成のインクにて実施) OECD Guidelines No. 406 (1992), 96/54/EC Method B6
生殖細胞変異原性	Ames試験 (サルモネラ菌、大腸菌) : 陰性
発がん性	カーボンブラックの発がん性分類： 日本産業衛生学会 第2群B (人に対して恐らく発がん性があると考えられる物質。証拠が比較的十分でない物質) 国際がん研究機関 (IARC) グループ2B (人に対して発がんの可能性のある物質) 国際がん研究機関 (IARC) はカーボンブラックの発がん性について、人での証拠は不十分であるが、動物での十分な証拠があると評価し、グループ2Bに分類した。動物での十分な証拠とは、ラットに粉末カーボンブラックを慢性的に吸入暴露させた結果、肺の粒子過負荷を生じる量で暴露されたラットに肺腫瘍が生じたことに基づいている。ただし、通常の使用条件においては、粉末カーボンブラックの吸入暴露量は無視しうる量である。
生殖毒性	成分についての情報 2-ピロリドン：区分1B ただし、通常の使用条件においては、2-ピロリドンの暴露量は無視しうる量である。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし
その他の情報	なし

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし

生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
他の有害影響	データなし

### 13. 廃棄上の注意

廃棄方法 使用済みのインクカートリッジまたはインクタンクは、所定の回収窓口または回収スタンドに持ち込む。または、国の法律や地方自治体の条例に従って廃棄する。

### 14. 輸送上の注意

#### 国際規制

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
MARPOLによるばら積み輸送される液体物質	該当しない

#### 国内規制

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない

特別の安全対策 なし

### 15. 適用法令

#### 労働安全衛生法

名称等を表示/通知すべき危険物及び有害物 カーボンブラック（施行令別表第9の130）

#### 化学物質排出把握管理促進法（化管法）

第一種/第二種指定化学物質 該当しない

#### 毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物 該当しない

#### 消防法

危険物及び指定可燃物 該当しない

#### 化審法

特定化学物質/監視化学物質/優先評価化学物質 該当しない

## 16. その他の情報

### 参照規格

本安全データシート（SDS）は、JIS Z 7253：2012（GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS））に準じたものである。

また、GHS分類はJIS Z 7252：2014（GHSに基づく化学品の分類方法）に従っている。

### 引用文献

- 労働安全衛生法 管理濃度
- 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告
- 米国 産業衛生専門家会議（ACGIH），Threshold Limit Values for Chemical Substances and Physical Agents and Biological Exposure Indices
- 世界保健機構（WHO） 国際がん研究機関（IARC），IARC Monographs on the Evaluation on the Carcinogenic Risk of Chemicals to Humans

### 略語

- 化審法：化学物質の審査および製造等の規制に関する法律
- 安衛法：労働安全衛生法
- 化学物質排出把握管理促進法（化管法）：特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律
- GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals（化学品の分類及び表示に関する世界調和システム）
- ACGIH TLV: American Conference of Governmental Industrial Hygienists Threshold Limit Values（米国 産業衛生専門家会議 許容濃度値）
- TWA: Time Weighted Average（時間加重平均）
- IARC: International Agency for Research on Cancer（国際がん研究機関）
- JIS: Japanese Industrial Standards（日本工業規格）

本安全データシート（SDS）の記載内容は、現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険有害性等の情報については、いかなる保証をなすものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。また、新しい知見が得られた場合には予告なくSDSを改訂することがありますのでご了承下さい。